

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B2202-1		事務事業名			文化財啓発事業				事業期間			平成19年度		～	令和8年度以降				
実施計画事業																					
実施計画事業以外の事業		○		担当部			教育委員会事務局				担当課・担当係										
事業 の 概 要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編		基本 施策	22	展開 方向	2	事業・予算区分		一般事業		款	10	項	5	目	6	大	2	中	2
	根拠法令 ・個別計画		—							対象 (何・誰を対象に)		市民共有の財産である小牧固有の歴史、文化財									
	目的 (何のために)		貴重な文化財を後世へ継承するために、文化財を調査、保存、記録するのみでなく、歴史講座や古文書講座等を開催することによって、市内の歴史や文化財について市民に周知を図るとともに、文化財の保護・保存・活用の市民意識の高揚を図る。							内容 (どのような方法で)		○令和5年度の実施内容 ・埋蔵文化財以外の文化財の調査や文化財に関する講座の企画・運営等を、学校法人足立学園(愛知文教大学)に委託して実施した。 【実施状況】 ・歴史文化基礎講座 3回 延べ178人参加 ・歴史講座 5回 延べ616人参加 ・古文書基礎講座 前期・後期各4回 33人参加 ・古文書実践講座 4回 34人参加 ・子ども古文書寺子屋 2回 10人参加 ・文化財巡り 1回 15人参加 ・信長学 3回 延べ188人参加 ・企画展「小牧宿400年 記念イベント」見学者延べ686人 ・民具整理、小牧の街道調査、街道ガイドマップ及びDVDの作成等を実施									

(2)事業費

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	9,074	10,089	9,430	9,619	
				国・県支出金		0	0	0	0	
				その他		115	128	583	402	
			計(A)			9,189	10,217	10,013	10,021	
			対前年比		%	—	111.19%	98.00%	100.08%	
		予算額		千円	10,216	10,000	10,000	10,040	9,948	
	人件費	正規職員		人	0.18	0.18				
		正規職員(平均賃金)		千円	1,347	1,347	0	0		
		その他職員		人			0.18	0.18		
		その他職員(時給×時間)		千円			408	408		
		計(B)		千円	1,347	1,347	408	408		
事業費合計(C=A+B)			千円	10,536	11,564	10,421	10,429			

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	22	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	指定文化財の件数	件	↗	44	43			
	展開方向	2	2	講座や展示、ワークショップ等への参加者数	人	↗	37,137	38,181			
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	講座等の受講者数	人	目標	600	620	820	1,520	1,840
				実績	596	788	1,453	1,760	
				目標					
				実績					
	活動指標	講座等の開催数	件	目標	7	9	11	13	15
				実績	7	9	15	17	
				目標					
				実績					
	単位あたり 事業費	受益者数(a)		人	—	—	—	—	
受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	—	—			

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの							
	事業の達成状況と課題	小牧の歴史を様々な視点や切り口で解説する講座を実施しており、その参加者数は、コロナ禍以降、順調に回復・増加傾向にある。参加者は高齢者のリピーターが多いが、最近の史跡小牧山の整備の進捗や、令和5年度はNHK大河ドラマ「どうする家康」放映にあわせたテーマなどの講座等を企画したこともあり、新規の参加者も見られるようになった。 令和5年度は、令和夏まつり開催に合わせて中央図書館イベントスペースで小牧宿に関する展示をしたところ、興味関心が低い方や若い世代の方も含め、多くの方に見ていただくことができた。 文化財の研究としては、市内の失われつつある文化財遺構等の記録や古文書の解読なども行い、冊子・パンフレット、DVDを発行した。 今後もより多くの方に、本市の歴史文化に興味関心を持っていたけるよう、事業内容や方法等を工夫して実施していく必要がある。 市内唯一の大学である愛知文教大学内地域連携センターに教員OBなどの郷土史家等で組織する委員会を設置し、業務を行っているが、メンバーが高齢化してきており、今後の事業継続について、検討する必要がある。		今後の実施内容・今後の改善内容	・現在開催している講座等は参加者数等を踏まえ、見直しを図るとともに、幅広い世代が歴史・文化財に興味・関心を持つきっかけとなるよう、内容・方法等を検討していく。 ・令和4～5年度に整理した民俗資料を活用し、身近な文化に触れられる企画展等を開催する。 ・令和8年度にラピオ4階に開設予定の(仮称)歴史民俗資料展示施設で行っていく活動との連携・統合を検討する。					
	改善の有無	有			千円 節 細節 細々節					
	これまでの改善内容	講座等の参加申し込みについて、これまではハガキによるものであったが、市HPに申込フォームを設定し、申込者の負担と事務処理の軽減を図った。		事務による事業額評価						

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	行政の関わる範囲を限定(対象を縮小)すべき	史跡小牧山をはじめ、本市の歴史や文化に関する講座のほか、古文書講座の開催をはじめ、市内文化財の調査研究を行う事業を行うことで、市民の本市への愛着・誇りの醸成等に寄与しており、一定の公費の投入は必要である。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある	事業が実施されなくなると、本市の歴史や文化について調査・研究が停滞し、また、その成果を知る機会が失われ、本市への愛着・誇りを育む機運が低くなり、まちづくりに影響が出る恐れがある。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	削減の余地がある	講座の開催回数を減らすとともに、受益者負担を増やす。また、チラシ印刷を廃止し、市HPやSNSだけのPRとするなど事業内容や実施方法を見直しし、経費削減に努める。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	外部委託や統合により削減の余地がある	大学への委託事業の内容を見直し、ラピオ4階の(仮称)歴史民俗展示資料施設の活動へ一部を移行することで、文教大学の受託委員会委員の負担軽減を図ると同時に、歴史民俗展示施設の活動費確保に寄与する。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	「講座等の開設及び運営に関する指針」に基づき受講料を設定している。